第３学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　３年２組教室　指導者　荒井　万友美

１　主題名　　バスの中で（B親切、思いやり）

（教材名：バスの中で　　出典：生きる力３【日本文教出版】）

２　目　標

困っている人がいたら、相手の気持ちを考え、「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行うことが思いやりであると理解し、進んで親切にしようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「親切、思いやり」とは、困っている人の立場に立って気持ちを想像し、「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行おうとする心のことである。相手を気にかけ、その人のために何ができるかを考えることは、温かな人間関係を築くことにつながる。本時では、困っているおばあさんを見て席を譲ろうとする「わたし」の姿を通して、親切にするときにはどのような考えが大切なのかについて考え、相手の気持ちを想像しながら行動しようとする心を育てたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童たちは、級友と元気に遊んだり活動したりすることが大好きで、自分の考えをはっきり言える児童もいれば、周りの様子を見ながら行動しようとする児童もいる。一方で場面によっては、自分の「こうしたい」という気持ちを大切にするあまり、周りの級友の様子や気持ちにまで、十分に目を向けることが難しいこともある。困っていそうな級友や、手助けを必要としていそうな人に気付いても、「声をかけたらどう思われるかな」「ちょっとはずかしいな」と感じて一歩を踏み出すことを迷ってしまう様子が見られる。しかし、これまでの生活を振り返ると、誰かに親切にしてもらったことをうれしそうに話したり、自分が勇気を出して親切にできたときに満足そうな表情を見せたりする児童も多い。こうした姿から児童は本来、周りの人の気持ちを思いやり、「誰かの役に立てたらうれしい」という思いを心の中にもっていると考えられ、本時においてはどんどん引き出したい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は、困っている人に「親切にしたい」気持ちと、「恥ずかしい・どう思われるかな」という迷いの気持ちがリアルに描かれている。
・主人公は、相手の気持ちを自分に置き換えて想像し、「もし自分だったらこうしてほしい」と考えることで一歩踏み出して親切な行動を選んでいる。
・自分の迷いやためらいも含めて見つめながら、思いやりの心が「行動」に変わっていく過程を自分事として考えやすい教材になっている。

〈こんな手だてで〉

・導入では、アンケートをもとに自分たちの生活を振り返り、「親切にしたい気持ち」と「恥ずかしさや迷い」の経験を共有することで自分事として考えられるようにする。
・「わたし」の心の葛藤を追うことを通して、相手の気持ちを考え「自分だったらこうしてほしい」と考えることが、親切の心につながることに気付くようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・思いやりとは、困っている人の気持ちを想像し「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行おうとする心であると理解し、恥ずかしさや不安からためらいながらも乗り越えて進んで親切にしようとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

導入では、事前アンケートをもとに、困っている人を見たときの自分たちの気持ちを振り返る。「助けたい」「声をかけたい」という思いがある一方で、「はずかしい」「どう思われるかな」などの迷う気持ちがあることを共有し、自分たちの心の中にもさまざまな思いがあることに気付かせる。そして、「助けたい」と思いながらも迷ってしまうとき、どのような考えが親切な行動につながるのかという問題意識をもたせ、「親切にするとき、どんな考えが大切だろう」という本時のめあてにつなげる。

展開では、教材を通して、席をゆずろうと思いながらもなかなか声をかけられない「わたし」の心の中にある、「助けたい気持ち」と「はずかしい気持ち」の葛藤に着目させる。その後ハートのバロメーターを活用しながら心の変化を比較し、おばあさんへの思いが大きくなったことを捉えられるようにする。さらに、おばあさんのことを考えていた「わたし」の思いを追うことで、「自分だったらどうしてほしいか」という考えに気付き、親切な行動を支える考えについて考えられるようにする。この学習を通して、思いやりとは、困っている人の気持ちを想像し、「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行おうとする心であることをみんなで確認したい。

終末では、学習を振り返り困っている人の気持ちになり、進んで親切にしていこうとする意欲を高めていきたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1 「こんなときあなたはどうする」を共有する。（3）	困っている人を見たときにあなたはどうしますか。			
	・助けてあげたい	・手伝いたいけど迷う	・助けたいと思うけど、はずかしい	※児童たちの心の中に複数の気持ちが同時にあることを気付けるようにするために、事前にアンケートを取り、提示する。
2 めあてを確認する。（2）	めあて　親切にするとき、どんな考えが大切だろう			
	・やさしくする	・相手のことを考える	・相手の気持ちを考える	
3 教材文を読む。（5）	せきをゆずろうと思ってもなかなか声をかけられなかった「わたし」は心の中でどんなことを思っていたのかな			
4 「わたし」の気持ちについて考える。（10）	・座らせてあげたい ・つかれたな ・すわりたいな	・座らせてあげたい気持ちとはずかしい気持ちの、どちらもある ・だれがゆずってくれないかな ・声をかけてほしい	・おばあさんにゆずりたい気持ちとはずかしい気持ちのどちらを選ぶか心の中で真剣にたたかっていた ・声をかけてくれるとうれしい	※ハートのバロメーターを用いて「わたし」の心の中を可視化する。ここでは、「相手を思う気持ち」と「自分自身に対する気持ち」の両方があり、心の中で葛藤していることをとらえられるようにする。
5 決心したときの「わたし」の思いについて考える。（15）	心の中の二人の「わたし」が争っていたのに、最後に「ゆずろう」と決めたのは、どんな思いがあったからだろう			
	・おばあさんが困っていた ・立っていて大変そう ・かわいそう ・疲れているな ・困っているな	・おばあさんのことが気になったから ・助けてあげたいと思ったから ・楽にしてあげたい ・座らせてあげた	・おばあさんのことばかり考えていた ・おばあさんへの思いでいっぱい ・自分のことよりおばあさんのことが気になった ・自分がおばあさんなら座りたい ・自分がおばあさんなら声をかけてほしい	※児童の発言を問い返したり関連付けたりしながら考えを深められるようにする。 ※ハートのバロメーターを用いる。主発問前と比べ、「「わたし」の心の中はどのように変わったのかな」と問い返すことで、おばあさんを思う気持ちが大きくなったことに気付くようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「おばあさんへの思いでいっぱいだった」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「おばあさんへの思いでいっぱいってどんなことを考えていたのかな」
6 親切について考える。（5）	親切にするとき、心の中にはどんな思いがあるのかな			
	・困っている人を助けること ・やさしくすること	・相手の気持ちを考えること ・困っている人のことを考えること ・相手のことを考えて行動すること	・自分だったらどうしてほしいか考えること ・相手の気持ちを考えて、自分だったらこうしてほしいと思うことをする	※めあてに戻ることで、この一時間で「親切」に対する考えがどのように深まったのか感じられるようにする。
7 振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・困っている人がいたら助けたい	・困っている人を見たら、相手の気持ちを考えて、動きたい	・困っている人を見たとき、自分の心の中でたたかうことがあっても困っている人のうれしい気持ちを選んで、自分からそっと親切にしたい	※この授業で学んだことを自分の言葉で記述する。

（4）評　価

・困っている人の気持ちを想像し、「自分だったらこうしてほしい」という視点から、親切について考えを深めることができたか。（発言・ワークシート）